

# 抗がん剤でステロイド減

## 神戸大など 小児期ネフローゼ新治療

神戸大と国立成育医療研究センターの研究グループは、慢性腎臓疾患のネフローゼ症候群のうち小児期の患者に対し、新しい治療法を開発したと発表した。抗がん剤の一種「リツキシマブ」を用いることで、副作用の恐れがあるステロイド（副腎皮質ホルモン）の投与を減らすことができるという。23日、英医学誌「ランセツ」電子版に掲載された。

研究グループによると、同症候群は血液中のたんぱくが尿に漏れ出て、全身にむくみが現れる。腎不全に

進行する危険性もある。小児期には年間1000人程度が発症しているという。通常、ステロイドと免疫抑制薬で治療できるが、全

体のうち2〜3割は再発を繰り返し、ステロイドの継続投与が必要となる。ステロイドの長期使用は低身長や骨粗しょう症などの副作用があり、新たな治療法の開発が課題だった。

研究グループが、2008年から同大学を含む国内9か所の医療施設で18歳未満の小児患者に治験を行ったところ、リツキシマブを

投与すると再発しない期間が2倍以上に延びるという結果を得た。投与が白血球に影響を及ぼし、抵抗力が

落ちることもわかったが、投薬で対処できるという。研究グループは年内の保険適用を目指している。神戸大が

戸大学院医学研究科の飯島一誠教授は「子どもたちに新しい治療法を届けることができる」と語った。

# 脱税額 1億円割る



台所の床下貯蔵庫から見つかった現金4793万円（国税庁提供）

全国の国税局が2013年度に告発した脱税事件1件あたりの脱税額（加算税含む）が約9900万円となり、35年ぶりに1億円を割り込んだことが国税庁のまとめでわ

## 昨年度告発 35年ぶり 1件あたり

同庁によると、13年度に強制調査（査察）を終えた事件は185件（前年度比6件減）で、脱税総額は145億円（同60億円減）だった。このうち悪質とみて検察庁に告発したのは63・8%となる118件で、脱税額の総額は、1件あたり1億円に満たない117億円だった。1件あたり1億円未満だったのは、約9500万円だった1978年度以来となる。